

## 農地中間管理事業評価委員会開催概要

1 開催日時 令和3年6月24日（木） 14:00～16:30

2 開催場所 兵庫県土地改良会館 6階 第1・2会議室  
神戸市中央区北長狭通5-5-12

### 3 出席者

(1) 農地中間管理事業評価委員会委員

| 区分  | 氏名    | 所属・職名                | 出欠 |
|-----|-------|----------------------|----|
| 委員長 | 星野 敏  | 京都大学大学院名誉教授          | 出席 |
| 委員  | 坊垣 昌明 | 兵庫県土地改良事業団体連合会常務理事   | 出席 |
| 委員  | 小寺 收  | 兵庫県農業協同組合中央会常務理事     | 出席 |
| 委員  | 堀 謙吾  | 兵庫県稲作経営者会議会長         | 出席 |
| 委員  | 黒田 覺  | 兵庫県集落営農組織ネットワーク協議会会長 | 出席 |

### 3 議事概要

- (1) 令和2年度の推進結果について
- (2) 令和3年度の推進方針について
- (3) 令和2年度の取組の評価及び意見について

### 4 評価委員会の意見

農地中間管理事業の推進に関する法律第9条の規定に基づき、兵庫県農地中間管理機構から、令和2年度の農地中間管理事業（以下、「農地バンク」）の実施状況について説明を受け、下記のとおり評価及び意見する。

#### 記

#### 1 令和2年度の取組の評価

貸付希望者や借受希望者を掘り起こしてマッチングする地道な活動が、令和2年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため制限されたが、説明方法の工夫や多様な媒体を活用した広報で補った。さらには、市町やJA、農業改良普及センター、土地改良事務所等の関係機関とともに、人・農地プランの実質化や集落営農組織の法人化、基盤整備事業等の関連施策と一体的に地域に働きかけることなど効果的な推進を行った。

また、令和2年度は集落ぐるみで農地の活用・保全を行う「いきいき農地バンク方式」の推進を全県で本格スタートした年であり、新たに28地区（44集落）での推進を開始した。

この結果、令和2年度の転貸実績は、面積では前年対比138%となる782ha、件数では過去最高となる905件と大幅に増加した。また、転貸面積に占める「いきいき農地バンク方式」の割合は約4割を占め、今後の推進に大きな可能性を感じさせた。

しかし、「農地中間管理事業の推進に関する基本方針」及び「兵庫県農地中間管理事

業推進方針」により設定された年間目標面積（2,500ha）にはまだまだ及ばないが、農地の集積・集約化による農業経営の効率化と農地の荒廃防止による地域資源の保全に資するため、引き続き現状を踏まえつつ推進に取り組む必要がある。

一方、農地バンク制度発足から7年が経過し、農地バンクで管理する農地が年々増加するに伴い、トラブルに対応せざるを得ない事態も増加する傾向にある。農業者が今後とも安心して農地バンクを活用するためにも、新たなリスクに対応した制度運用や事務体制を構築する必要がある。

## 2 今後の推進に対する意見

今後、農地バンクを活用して兵庫県農業の構造改革を進めるには、個別の農家ごとにマッチングを行う通常の農地バンク事業とともに、集落ぐるみで農地の活用・保全を行う「いきいき農地バンク方式」を2本柱で推進することが必要である。

対象面積の拡大のためには、引き続き貸付希望者や借受希望者を掘り起こす地道な活動が肝要ではあるが、より現場に近い位置での広報など情報発信力の向上と、貸付・借受希望者の声を即座に拾い上げる情報収集力の向上が必要である。

また、令和3年度は、兵庫みどり公社と兵庫県農業会議が組織統合し「ひょうご農林機構」が発足したところであり、今後は、農地バンクと市町農業委員会の連携強化、担い手育成や農村地域づくり支援等、組織統合のメリットを活かして、より一層効率的・効果的な推進に努めることとし、これらを踏まえ、以下の事項に重点的に取り組むべきである。

- (1) 「いきいき農地バンク方式」のさらなる推進
- (2) 人・農地プランの実質化、基盤整備、集落営農組織の法人化等関連施策と連動し、関係機関と一体となった推進
- (3) 農業委員・農地利用最適化推進委員との連携による情報発信力・情報収集力の強化
- (4) インターネット等多様な媒体を活用した広報活動の強化による掘り起こし
- (5) 集積・集約につながる担い手組織との連携の推進
- (6) 農村地域づくり達成に寄与できる農地の集積・集約
- (7) 新たなリスクに対応した農地バンク制度及び事務体制の構築